

【OIE 情報】 リトアニアにおけるアフリカ豚コレラの発生について

リトアニアにおけるアフリカ豚コレラの発生についてOIEに報告がありましたのでお知らせします。

リトアニアは東ヨーロッパに位置し、北にラトビア、東にベラルーシ、南西にポーランド、西にロシア（カリーニングラード、ロシアの飛び地）と国境を接し、西はバルト海に面しています。

我が国とリトアニアの間では生きた偶蹄類及び偶蹄類の肉等の家畜衛生条件はありません。

【出典】

OIEウェブサイト（2014年8月13日付け）

http://www.oie.int/wahis_2/public/wahid.php/Reviewreport/Review?reportid=15843

（OIE情報は更新・差替えが行われる場合がありますので、出典元も併せて御確認下さい。）

【概要】

- ・発生数：2件（続報4）
- ・発生日：2014年8月10日、11日
- ・OIEへの報告日：2014年8月13日
- ・臨床徴候：あり
- ・リトアニアでの家畜豚の3、4例目の発生

【発生状況】

- ・8月10日：ウテナ県 イグナリナ地区 Ceikinai parishの農場（リトアニア東部）

【動物種】	【飼育頭数】	【症例数】	【死亡数】	【淘汰数】	【と畜数】
豚	2	2	1	1	0

裏庭飼育農場で飼育されていた肥育豚（家畜豚での3例目）

- ・8月11日：ウテナ県 イグナリナ地区 Duksto parishの農場（リトアニア東部）

【動物種】	【飼育頭数】	【症例数】	【死亡数】	【淘汰数】	【と畜数】
豚	1	1	1	0	0

裏庭飼育農場で飼育されていた肥育豚（家畜豚での4例目）

【疫学情報】

- ・感染源：不明又は調査中
（家畜豚での3例目）
- ・2014年8月10日、イグナリナ地区 Ceikinai parish の裏庭飼育農場の所有者が、原因不明の豚疾病の疑いについて民間の獣医師に報告。
- ・飼育していた2頭の豚（4か月齢）のうち1頭で体温の上昇（41℃）。
- ・8月11日の夜遅く、2頭の豚から血液サンプルが回収され、National Food and Veterinary Risk Assessment Institute (NFVRAI)へ送付された。

- ・ 8月12日、農家は1頭の豚の死亡を報告。
- ・ 死体はアフリカ豚コレラの検査のため、NFVRAIへ送付された。
- ・ 8月13日、NFVRAIは血液及び臓器サンプルからRT-PCRによってアフリカ豚コレラを確認。
- ・ もう1頭の豚は淘汰され、アフリカ豚コレラの検査のため、NFVRAIへ送付された。
(家畜豚での4例目)
- ・ 8月11日、イグナリナ地区 Dukšto parish の1頭の豚を飼育している裏庭飼育農場で、臨床所見無く豚が死亡したと、所有者から報告があった。
- ・ 8月12日、死体はアフリカ豚コレラの検査のため、NFVRAIへ送付された。
- ・ 8月13日、NFVRAIは臓器サンプルからRT-PCRによってアフリカ豚コレラを確認。

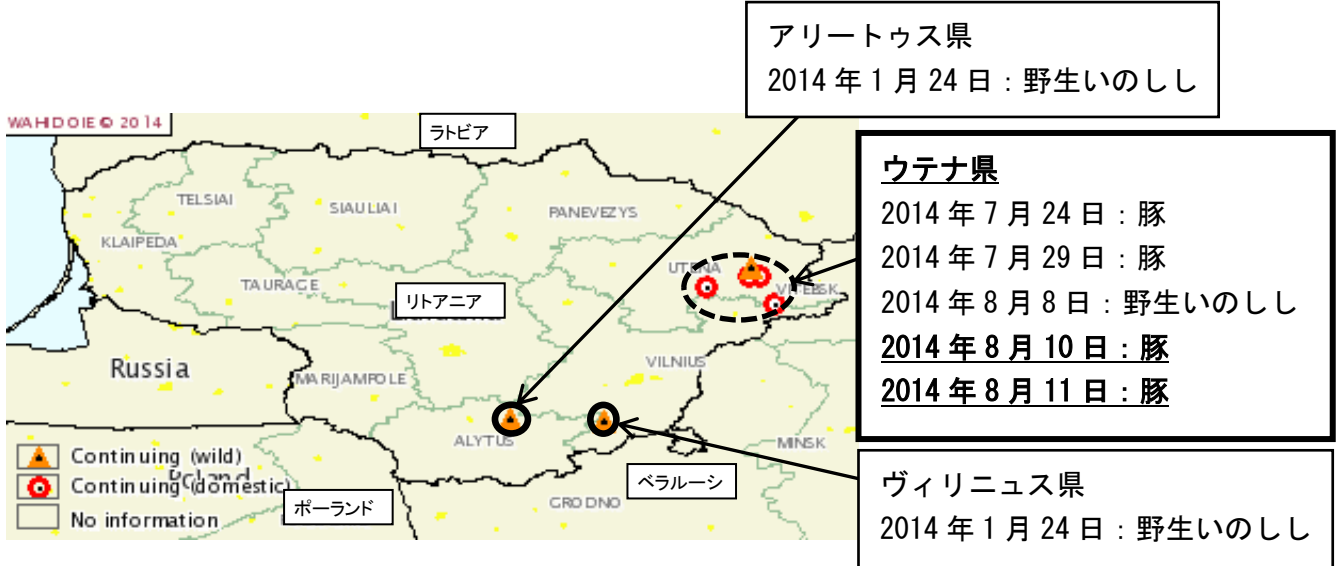
【対応】

- ・ 淘汰
- ・ 施設等の消毒
- ・ ワクチン接種なし（動物衛生課注：有効なワクチンがない）
- ・ 患畜を治療対象としない

【診断】

- ・ 診断施設：National Food and Veterinary Risk Assessment Institute（地域リファレンスラボラトリー）
- ・ 診断方法：リアルタイムPCR（陽性、2014年8月13日）

【リトアニアにおけるアフリカ豚コレラの発生状況】



(参考1：アフリカ豚コレラとは)

アフリカ豚コレラウイルス（二本鎖DNAをゲノムに持つアスファウイルス科アスフィウイルス属）感染による豚の熱性伝染病。臨床症状および病理所見は豚コレラと類似。甚急性では突然死亡、急性では発熱（40～42℃）、食欲不振、粘血便（ねんけつべん）を呈し、100%死亡する。

感染豚や実験感染豚にはこのウイルスに対する中和抗体が産生されないため、本病に対する有効なワクチンはない。スペインやポルトガルなどでは大規模な殺処分等による防圧で本病を撲滅した。有効な治療法は存在しない。

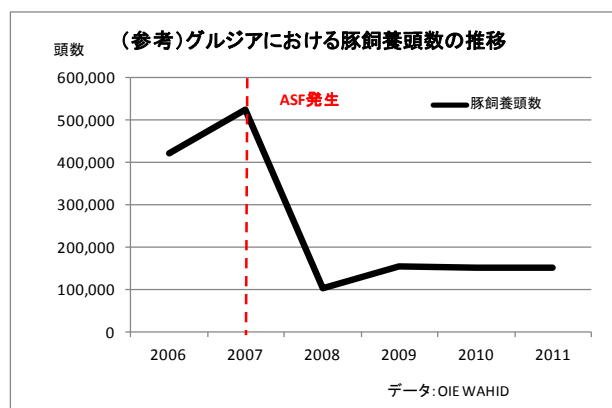
我が国では、法定伝染病に指定。

国際連合食糧農業機関（FAO）などの国際機関が「国境を越えてまん延し、発生国の経済、貿易及び食料の安全保障に関わる重要性を持ち、その防疫には多国間の協力が必要となる疾病」と定義する「越境性動物疾病」の代表例である。

本病は、アフリカ地域で常在的に発生が見られるが、近年、ロシアのコーカサス地方等での続発や中東欧での発生が報告されている。

（参考2：コーカサス地方・中東欧におけるアフリカ豚コレラの発生）

- ①2006年末頃、グルジアで発生。コーカサス地方に侵入（黒海に面するポチ港を通じて、南アフリカからグルジアに侵入）
- ②グルジアでは2007年に約50万頭の豚が飼養されていたが、2008年には約10万頭に減少。



- ③2007年8月にアルメニア（豚）、2007年11月にロシア（チェチェン共和国）（野生いのしし）、2008年1月にアゼルバイジャン（豚）で発生。
- ④2012年7月にウクライナ（豚）、2013年6月にベラルーシ（豚）で発生。
- ⑤2013年7月、EUはベラルーシでのアフリカ豚コレラの発生に関し声明を発表。
- ⑥2014年1月にリトアニア*（野生いのしし）で発生、ウクライナで再発（豚、野生いのしし）。
- ⑦2014年2月にポーランド*（野生いのしし）で発生。
- ⑧2014年6月にラトビア*（豚、野生いのしし）で発生。
- ⑨2014年7月にポーランド*（豚）及びリトアニア*（豚）で発生。

*: EU加盟国

※これまでにロシアでは、アフリカ豚コレラの発生によって60万頭以上の豚が死亡又は淘汰されたとの報告がある。

※コーカサス地方では昨年、口蹄疫（A型）も発生。ワクチン接種等を実施中。